



愛知登文会・文化財紹介

【2017 年総会】



- | | |
|------------------------------|-------|
| ・旧中央線玉野第三隧道ほか(愛岐トンネル群)(春日井市) | ・・・1p |
| ・旧堀田廣之家住宅(津島市) | ・・・2p |
| ・蓮教寺(名古屋市) | ・・・3p |
| ・棚橋家住宅(名古屋市) | ・・・4p |

本冊子は愛知登文会 2017 年総会において所有者様から紹介いただいた内容を
ベースに事務局でとりまとめたものです

旧中央線玉野第三隧道ほか（愛岐トンネル群）

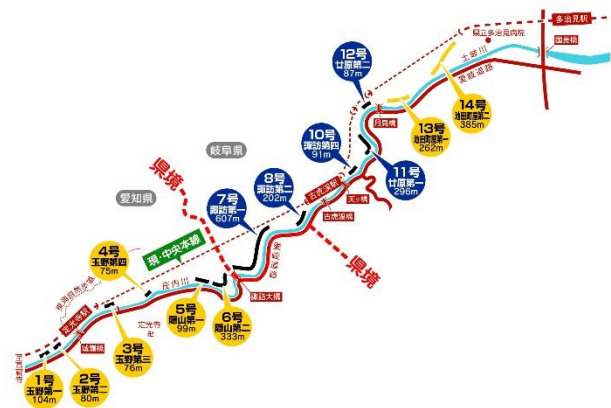
所在地：春日井市玉野町字東谷 1664-1 他
所有者：NPO 法人愛岐トンネル群保存再生委員会
建築年：旧中央線玉野第三^{ずいどう}隧道・玉野第四隧道・
笠石洞暗渠^{あんきょ} 明治 33 年（1900）
登録年：平成 28 年（2016）

（１）近代化産業遺産

愛岐トンネル群とは、定光寺駅と多治見駅の間に点在する全 14 基のトンネルの総称です。トンネルの集積地として、その規模は日本最大を誇ります。かつて名古屋ー多治見間を結んだ旧国鉄中央線が通っていました。昨年 7 月、第 3 トンネルなど 3 基が国登録有形文化財の土木構造物として登録が答申されました。



第 3 トンネル



トンネル配置図

（２）歴史的特徴ー旧国鉄中央線の廃線

旧国鉄中央線は、明治 33 年（1900）に開通し物流に大いに貢献していましたが、戦後の複線電化に伴い昭和 41 年（1966）に廃線となりました。平成 17 年（2005）にトンネルが発掘され、整備のの

ち、平成 20 年（2008）年より春と秋に特別公開を始めました。毎年公開時期には多くの人が訪れ、これまでにのべ 18 万人以上の方が訪れています。また、トンネル内で日食・月食の観測イベントをしたり、トリエンナーレパフォーマンスの舞台としたりと、様々なイベントを行っています。



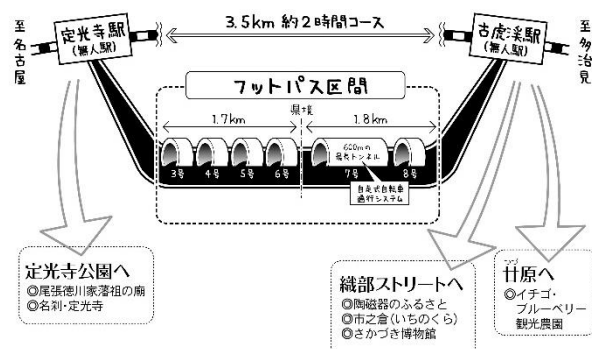
平成 17 年発掘時の第 3 トンネル



トンネル内の観測イベントの様子

（３）今後の活用ーフットパスの仕組みづくり

最寄りの駅である定光寺駅と古虎溪駅の間の 1 区間をフットパス（歩くことを楽しむ道）区間に設定し、電車を降りて歩いてもらう仕組みづくりを考えています。



JR 駅間フットパスのイメージ図

旧堀田廣之家住宅

所在地：津島市祢宜町 68
所有者：個人
建築年：主屋・門・煉瓦塀・板塀 明治 45 年 (1912)
蔵 大正期
登録年：平成 28 年 (2016)

(1) 3代受け継いだ住宅

津島市の祢宜町通りに面して建つ住宅です。明治末年、近隣に建つ堀田家住宅（国重要文化財）から堀田廣之氏（現所有者の祖父）が分家をして建てました。昨年7月、主屋など5棟の国登録有形文化財への登録が答申されました。



旧堀田廣之家住宅外観

(2) 建築的特徴一本家堀田家の名残を残す

2階の書院は本家と同様、琵琶台と床の間を備えており、親族の結納など特別なときに使ってきました。門は明治45年(1912)に建てられたと記されていますが、古写真によれば隣接していた本家の通用門として既に存在しており、この住宅の中で最も古い建造物と思われます。(本家住宅の方は道路拡張に際して曳家され移動しています)



書院内観



現在の門



地鎮祭の様子.右奥に門が見える

(3) 今後の保存一家屋と資料の保存継承

旧堀田廣之家住宅には、建築当時の写真や図面、設計書、精算帳、日記など、貴重な資料が数多く残っています。所有者の松永氏は、「家と共にそれにまつわる資料も多数残っているところに価値があると思います。この家に住んだ人々の面影と共にこれらを大切に守って住み継いでゆきたい」と語っています。



木材について記録した古文書

蓮教寺

所在地：名古屋市名東区高針四丁目 864
所有者：宗教法人蓮教寺
建築年：本堂 宝暦 8 年（1758）
庫裏 宝暦 13 年（1763）
梵音寺本堂 寛政 10 年（1798）
書院・山門及び脇堀 文化 9 年（1812）
鐘楼 明治 15 年（1882）
登録年：平成 29 年（2017）

（１）平安時代より続く寺院

名古屋市名東区高針に建つ寺院です。平安時代長徳年間（995～998）に創建されたと伝えられています。昨年 11 月、本堂・庫裏など 6 棟の国登録有形文化財への登録が答申されました。



蓮教寺本堂外観

（２）歴史的特徴－改宗と尾張名所図会

創建当初は天台宗でしたが、永禄元年（1558）に真宗高田派へ改宗しました。正徳 6 年（1716）に現在地へ移転し、現在の建物が建てられました。当時の様子は、この地の名刹として尾張名所図会（天保 12 年（1841）刊行）に描かれています。



尾張名所図会に描かれた蓮教寺

（３）今後の活用－地域に親しまれる場所づくり

お寺の法要では、椅子を出して参拝者に配慮したり、小中学生向けの見学会では畳に座ってお香や火鉢を体験したりと、人に合わせた場所と雰囲気づくりを行っています。また、庫裏を高齢者の交流サロンに利用して頂いたり、書院をコンサート会場として使用したりしています。緑が豊かな境内の整備を檀家さんとともに積極的に進めており、自然と親しむ子ども向けのイベントをボランティアの方たちと協力して開催しています。



法要の様子



洋室仕様に改装した庫裏内観



夏の流しそうめん体験の様子

棚橋家住宅

所在地：名古屋市緑区有松 3004
所有者：個人
建築年：明治 8 年（1875）
登録年：平成 21 年（2009）

（１）有松の絞り問屋由来の住宅

名古屋市緑区名鉄有松駅南にある有松のまち中心部に建つ住宅です。もとは絞り問屋服部七左衛門家の建物でしたが、昭和 8 年（1933）空き家となっていた当建物で棚橋龍三氏（現所有者の父）が棚橋医院を開業しました。その後棚橋家は建物を購入し、現在は住宅として利用しています。



棚橋家住宅外観

（２）建築的特徴－３つの見どころ

その１、鬼瓦。西側には棚橋家の家紋、東側には服部家の家紋が施されています。その２、屋根の上の鍾馗（しょうき）像とつばめの像。鍾馗とは中国由来の神であり、その像は魔よけの効果があるとされています。有松の伝統として、まちのいくつかの住宅の屋根に施されています。その３、屋根を支える大梁。全長 16.4m の一本松で、民家としては珍しい部材です。



棚橋家の家紋入りの鬼瓦



鍾馗像



つばめの像



松の大梁

（３）今後の活用－イベント会場として公開

近年は、絞りまつり（本年は第 33 回を 6 月 4 日開催）や晩秋の有松を楽しむ会に参加したり、絞り会館で開催された、民家の甲子園（高校生写真コンクール）や朗読劇「捕虜のいた町」に合わせて展示会を開いたりするなど、様々なイベントの際に会場として一般に公開しています。



絞りまつり

総会会場 棚橋家住宅



平成 29 年度総会は、名古屋市緑区有松の棚橋家住宅で開催しました。

愛知登文会主催のイベントとしてはこれまでに、子ども文化財体験事業（平成 26 年）、特別公開事業（平成 26 年、27 年）、総会における文化財紹介（平成 27 年、29 年）と、様々な事業でご協力いただいています。



発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目6番15号先

名古屋テレビ塔 株式会社内

TEL (052)-971-8546 FAX (052)-961-0561

E-mail info@aichi-tobunkai.org

ホームページ <http://www.aichi-tobunkai.org/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/aichi.tobunkai>